

第 2 期における暫定評価及び第 3 期に向けた御意見について

(第 3 期中期目標関係資料)

昨年度の第 4 回評価委員会 (R2.1.24) で審議いただいた第 2 期中期目標期間における業務実績に係る暫定評価結果と、第 3 期中期目標策定に向けて委員からいただいた主な御意見については、以下のとおり。

(以下、○：第 2 期暫定評価 ■：第 3 期に向けた意見)

1 教育に関する目標

- 学群制移行に伴う新カリキュラムの構築が順調に進み、基盤教育でもアクティブ・ラーニング科目が積極的に導入された。特にコミュニティ・プランナープログラムをもとにした地域社会の担い手育成プログラムは特筆すべき成果を挙げている。また、シラバスのチェック体制の強化による質の向上、各コモンズを中心とする施設整備など、学生の学内学修環境の整備が進んだことは高く評価できる。
- 大学院定員未充足は多くの大学の課題となっているが、宮城大学においても事業構想学、食産業学各研究科の定員未充足が続いている。「地方自治体派遣枠」の新設や、各研究科での将来構想の検討が重ねられていることから、今後の展開に期待したい。
- 教員評価では、各教員の納得が得られる目的が明確な評価制度を目指した検討が重ねられており、また、授業評価では学生の回答率の向上を目指すとともに、P D C A の仕組みが構築され授業改善へと繋がっていることを評価する。
- きめ細かな就職支援体制を敷き、長年にわたり高い就職率を維持している。特に、平成 30 年度及び平成 29 年度の学部卒業生は就職率 100% を達成しており、高く評価できる。
- 内部質保証・学修成果の可視化については、全ての大学における重要な論点である。
- 本気で外国人留学生の増加を目指すのであれば、方針だけではなく、具体的なアクションプランが必要。

2 研究に関する目標

- 地域連携センターの機能が向上し、対外的・対内的な連携が大きく進んだこと、また研究不正を防止する取り組みが行われていることを評価する。
- 研究費の公平かつ競争的な配分に留意していること、また被災地復興に向けて研究への配分を手厚くするなど、研究力発揮に向けた方策を評価する。

3 地域貢献等に関する目標

- 県内の病院・企業での実習やインターンシップ、県内全域での体験・体感型学修の導入により地域社会に貢献する人材育成が行われたことを評価する。
- 図書館の施設利用について地域に開放されていることを評価する。
- 3 学群がそれぞれの特徴を生かし、産学連携を推進することが重要である。
- 人口減少・高齢化の中で、宮城大学にはぜひ「ローカルビジネス」の観点から、市

町村・ローカルとの連携をより深めていってほしい。

4 業務運営の改善及び効率化に関する目標

○より適正な制度をめざす教員評価制度の抜本的再構築の方向性について評価する。

5 財務内容の改善に関する目標

○大型の研究費が獲得できる仕組み作りが必要と考える。

○外部研究資金の適切な目標額について、第3期中期計画において再検討が必要と考えられる。

6 教育及び研究並びに組織及び運営の状況に係る自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標

○学長主導のもと厳格な自己評価を行い、向上に努めていることを評価する。

■大学の業務実績評価にあたっては、数値的・視覚的な資料等、可視化された資料になると良い。

7 全体

○全体として、第2期中期目標は順調に進んでいると評価できる。

○外国人留学生の割合や外部研究資金の獲得目標額等、第2期期間中継続的に課題となっている事項については、第3期において適切な検討がなされることを期待する。

○県内自治体等との連携を一層密にし、高度な実学を地域で実践され、第2期中期目標の達成状況がさらに良好なものとなることを期待する。